

# Flair

June 2009 / Summer  
Vol.  
**74**  
THE TEIKYO SELF

## CONTENTS

- 02 This is my style.  
こんな風に、暮らしています
- 12 Good Fellows.  
やっぱり仲間が一番です
- 14 Surprise Us.  
先生が、教えてくれるコト
- 15 What's Up?  
いま、何やってる?
- 16 Our Recommend!  
みんなの、カルチャー
- 18 Good Health.  
やっぱり健康が一番です
- 19 Notice Board.  
大学からのお知らせです



We ♥ Mountain!

特集

山はともだち。



[www.teikyo-u.ac.jp/flair/](http://www.teikyo-u.ac.jp/flair/)



板橋キャンパスにて



This is my style.

こんな風に、暮らしています。

八王子キャンパスにて

File:10

name: 石黒 彩さん  
grade: 6  
hobby: 旅  
class: 医学部医学科

旅でみつけた  
国際協力へのマイウェイ

ロバート・キャバの報道写真展を見て、恵まれない人のための医師を目指した石黒さん。途上国を中心に17カ国を周り、各国の医療現場を見て「自分はこの力が尽くせるのだから」と悩んでいたとき、フィリピンでもらった言葉「好きなことをすればいい、足が出た方向に歩き出す」というひと言で初心にかえったという。

今は精神科医を目指し、ゆくゆくは公衆衛生などの視点から国際協力をしたいと考えている。「私は、何かを始めるときにいつも人からのエールを力にしていたので、自分も医者としてだけではなく、人として影響を与えられる人間になりたいです」彼女の笑顔には、未来を見据えた強い意志が感じられた。



日記をつけるため旅に持っていくノートはもう10冊を超える。何かに迷ったときに読み返すことも多いそう。

File:9

name: 奥村知史さん  
grade: 4  
hobby: 俳優業  
class: 文学部  
米英言語文化学科

大学生活と俳優業  
どちらも手は抜きません

奥村さんが「俳優になる」と決めたのは、高校3年生のとき。大学生活と俳優業はほぼ同時にスタート。入学当初から忙しく、「友だちを作るタイミングを失って焦りました(笑)」と振り返るが、いまでは大勢の仲間がいる。とはいえ、俳優業が軌道に乗るまでは苦勞の連続だった。数え切れないぐらいのオーディションに失敗し、自信を失いそうになったことも。転機となったのは、2007年に舞台「哀しい予感」に出演したこと。

「お客さんの反応を生で感じられたこと、それと、共演者の方々のあたたかい言葉が励みになりました。憧れだった俳優さんたちが、僕をひとりの役者として見てくれる。そういう経験一つひとつが、自信につながりました」



初舞台となった『哀しい予感』の台本。書き込まれたメモに、彼の真摯な素顔が垣間見られる。



三浦豪太さん Gota Miura  
プロスキーヤー、登山家

1969年、神奈川県鎌倉生まれ。父、三浦雄一郎氏とキリマンジャロを最年少記録11歳で登頂。フリースタイルスキーヤーとして長野オリンピックに出場。現在、ミウラ・ベースキャンプ所長を務める。

Interview with Climber

## 三浦豪太さん、山の魅力って何ですか？

フリースタイルスキーヤーとして長野オリンピックにも出場した三浦豪太さん。父親の雄一郎さんとともに一流の登山家としての顔を持つ彼に、山の魅力について聞いてみました。

### 心に大きなおもちゃ箱を持った、優しい登山家。

「山はナメるくらいがいいんです。」

「僕はどんな山に登る場合でも、その山に行くまでの過程から、頂上に立つ瞬間までのすべてを含めて、山登りっていいなって思えるんです。キリマンジャロでも、葉山の自宅近くにある標高150メートルの山でも、登ればどちらも本当によかったなと感じる。だから好きな山をひとつだけは、選べないなあ」

印象に残っている山をひとつあげてください、という質問にそう答えてくれた三浦豪太さん。有名な冒険スキーヤーであり、登山家としても世界最高齢でのエベレスト登頂記録を持つ父親の三浦雄一郎さんに連れられて、3歳のときに富士山、11歳ではなんとアフリカ最高峰のキリマンジャロに登頂する。「ひとつの山に登ると、その経験が自分の心の中のおもちゃ箱に入るんです。もちろん登る過程では、辛くなって思う瞬間もありますが、一度そのおもちゃ

箱に入れてしまうと、次にその箱をひっくり返してみたときには、その経験すべてが良い思い出になっていくんです」

今は雄一郎さんと共にエベレストへのチャレンジを繰り返しながら、ミウラ・ベースキャンプ所長として、登山の楽しさを、数多くの人へ伝えていく。

「僕は物心ついたときから山登りをしていて、今では山登りを表現する立場になりました。登山や旅、冒険ってすべてがひとつなんじゃないかな。アフリカで人類が生まれてから9万5千年くらいの間、人間の生活はすべてが旅だったんです。そうして地球全体に人類が広がっていった。今のように人々が定住するようになったのはここ5千年〜6千年くらいのことです。実は定住こそが人間にとって非日常なんじゃないでしょうか。だから人間は旅を続け、山にも登るんだと思います」

「山登りの技術というのは後からついてくるもの。まずは行きたいと思う気持ちが大切。登山の本には、まずは道具をそろえて…なんて書いてありますが、もちろんそれとても大切ですが、あまり細かいことはわかりませんが、歩いていたら、行く前に諦めちゃう。それよりも、今見える近くの山にとりあえず登ってみてください。あまり登山ということが意識しないほうがいい。僕がいうのもなんですけれど、山はナメるくらいがいいんです。備えあれば憂いなし、とはいっても、初めから備えすぎると備えのありがたみが分からなくなってしまう。雨に降られて濡れてしまったら、今度はレインコートを持って行こうって思える。そんな感じでいいんです。知識より経験を積んだほうが手取り早い。いずれにせよ、行きたいと思った山が、自分にとっての最良の山。まずは登りたいと思える山を見るための時間を作ることが、登山を楽しむための大切な第一歩なんです」



(写真上) 三浦さんが実際に使用している登山道具。この道具とともにさまざまな山に登頂してきた。(写真下) 2003年にはエベレスト登頂に成功。昨年もチャレンジしたが、残念ながら重度の高山病で断念したという。



## 登る、眺める、暮らす♡ 山って楽しい!

ちかごろ、世の中どうやら「山」流行りです。今回は、そろそろ夏休みの計画を立てたいこの時期にぴったりの、山の楽しみ方を徹底指南。プロの山岳家、ワンダーフォーゲル同好会の学生、山に住む先生…山の愛し方は人それぞれだけれど、とにかく山はひと言葉では言い表せないほど奥深い! みなさんも、「山時間」に身を委ねてみませんか?



# 特集 山はともだち。

山の仲間たちが、僕の宝物です

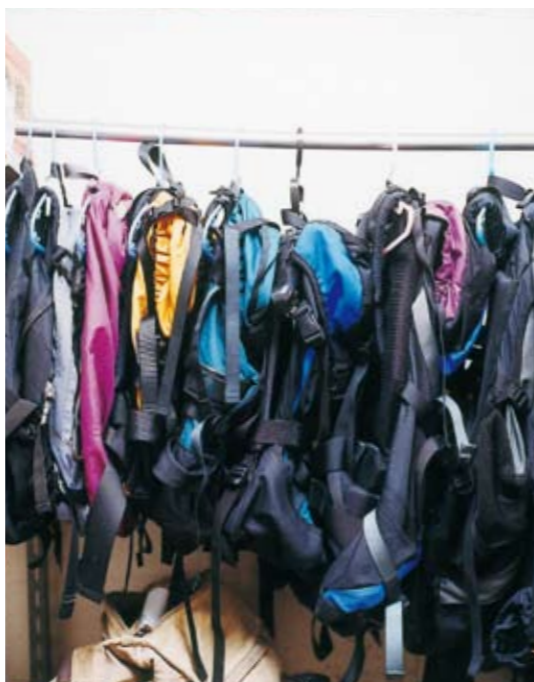
体力以上に、登りたい気持ちの方が大事

帝京大学ワンダーフォーゲル同好会は今春、かつてない珍現象(?)にうれしい悲鳴をあげた。新入生があふれ返り、部屋に収まりきれないのだ。「確かに最近の富士山や高尾山はすごい人なんですよ」と話すのは古宮隆さん。副将の鈴木耕造さんも「登山のアイテムが充実したことや、ウェアがおしゃれになっただけで、ウエーブが押し寄せたことも人気の一因なのかもしれない」とひと言。

ともあれ、ワンダーフォーゲル同好会は、山に登るだけがすべてではない。クライミングもすれば、他のアウトドアスポーツにも挑戦する。部の存在をひとりでいうと「自分の命を預けられるような仲間と出会う場所」と鈴木さん。「重いザックを背負って坂道を登るのは体力的にはきつけれど、仲間と登る達成感は何ものにも代えがたい。同じテントで寝て、同じ釜の飯を食い、苦しみを共有し、感動を分かち合う。山の仲間のつながりはすごく深くなりますね」

古宮さんも「非日常の景色が見られるのが、山の魅力。大学4年間を無駄にしたいくない、いろんなことにチャレンジしたいと思って入部したけど、正解でした!」と笑顔を見せる。

ワンダーフォーゲル同好会の部員は現在20名。登山経験者もい



1. 登山に必要な必須アイテムは、ザック、登山靴、雨具、寝袋、ナイフ、ヘッドライト、コンパスなど。 2. 週2回、昼休みのミーティングでは、登山の行程を確認したり、地図の読み方やコンパスの使い方を下級生に教えたり。 3. 歴代部員の山の記録と思い出はアルバムに。なかには男性よりもタフな女性部員も。何日もお風呂に入れないこと、簡易トイレしかないことに抵抗感がなければ、女性でも充分にこなせる行程とのこと。 4. 登山靴はサイズや履き心地が重要なので、自分で揃えるのが基本だが、装備の貸し出しも積極的に行っている。

鈴木耕造さん Kozo Suzuki  
法学部法律学科3年生

カメラが趣味で、山の写真を撮りたいと入部。以来、(カメラよりも)山の魅力にどっぷりはまる。「1年生の夏に登った南アルプスが、すごく楽しくて。先輩に良くしてもらったし、山の楽しさを知ることができました」

古宮隆さん Ryuichi Komiya  
経済学部観光経営学科2年

以前から山に憧れていたが、本格的な登山は大学に入ってから。昨年1年間は天候にめぐまれず、雨の中「苦行のような」登山が続いた。「那須ヶ岳に登ったときだけ、やっと晴れて、こんなに山って楽しいんだ!と気づきました」

るが、大学から登山を始める初心者も多い。だから新入部員には、登山のイロハからきっちり教えこむ。「登るスピードもいちはん体力のない人に合わせるので大丈夫」とは鈴木さん。

「まず4月に新入生歓迎登山をします。スニーカーでも登れる山で、パーベキューをしたり、部の雰囲気を感じてもらおうのが目的です。続く5月には、ザックや登山靴、雨具などの必要最低限の装備を揃えて、奥多摩の雲取山に行きます。ここでは、装備の使い方を教え、2泊3日のキャンプを体験してもらいます」

そして、一番の目玉は標高2500〜3000m級の山に登る夏山登山。今年も南アルプスを予定しているという。6月にはその前段階の訓練として、日本百名山のひとつである谷川岳でクライミングや雪上訓練も取り入れた合宿を行う。

ところで、副将の鈴木さんが部員たちを山に連れていくときにいちばん気をつけているのは、怪我をさせないこと。「山は危ない場所もたくさんあるんです。楽しみつつも、守るべきルールは守ること。そして、それぞれの身の丈にあったプランを立てること。決して無理はしないことが、部の鉄則です」

人気急上昇の帝京大学ワンダーフォーゲル同好会。いま山が熱い理由を、自分の目で確かめてみるのもいいかもしれない。

What a Wonderful Mountain Life!

ワンダーフォーゲル同好会のみなさん、山の楽しさを教えてください。

ドイツ語で「渡り鳥」を意味する、ワンダーフォーゲル。その名の通り、大空を駆ける鳥のように自由に大自然を旅したい。そんな夢を追いかけ続けるワンダーフォーゲル同好会のお2人に、山の魅力を教えてください!



山に登るだけが山の楽しみではありません。  
山でなくても「登る」こと、  
登りではなく「暮らし」にある山。  
それぞれに、山登りとは違う魅力があるようです。

Around the mountain  
山つながりで、  
こんな楽しみ方もあります。

## 山に暮らす 八ヶ岳の家

野村泰彦さん Yasuhiko Nomura  
医療技術学部スポーツ医療学科講師

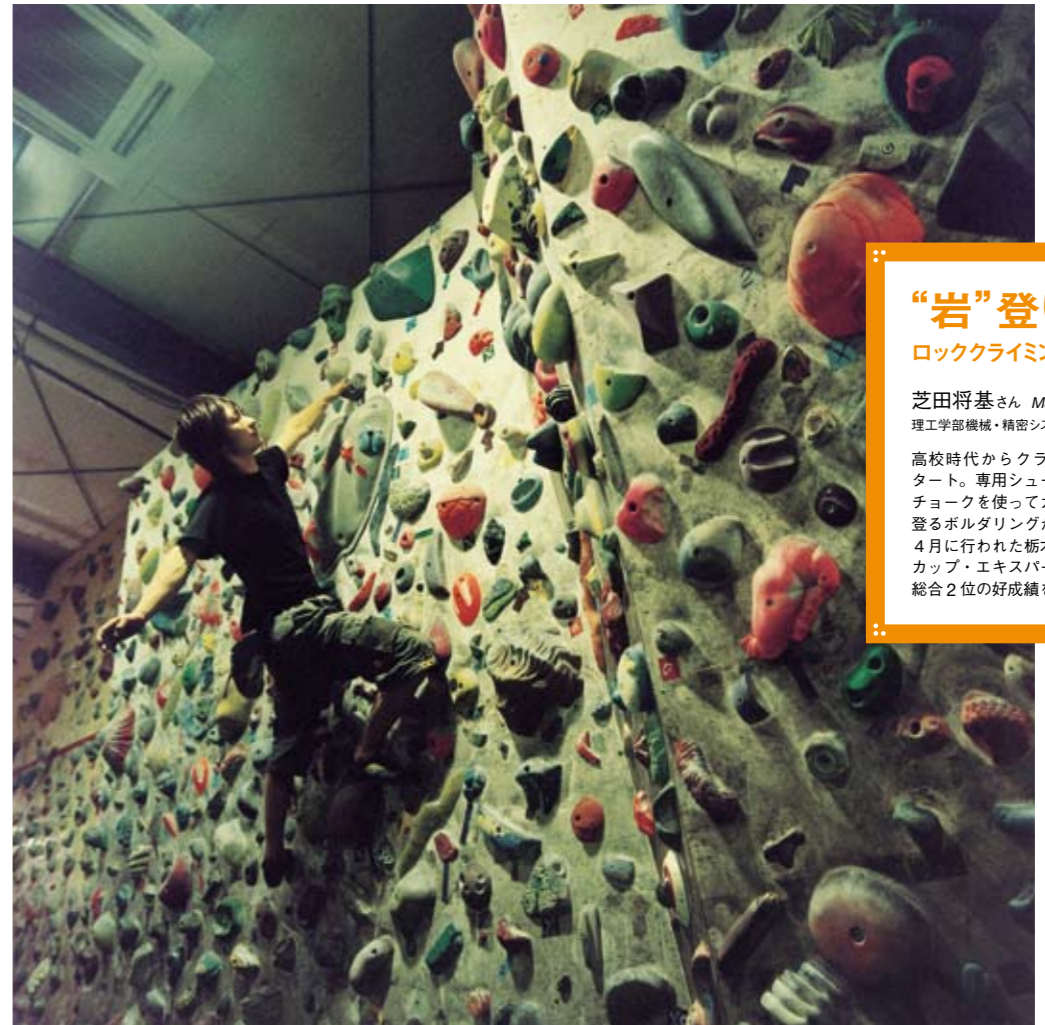
特別支援学校や高等学校の校長を経て、自らもプレーしていたバスケットボールの指導や協会の理事などを歴任。定年退職を機に滋賀県から八ヶ岳へ居を移し、2006年から帝京大学の講師に。八王子キャンパスで講義を行っている。



## “岩”登り ロッククライミング

芝田将基さん Masaki Shibata  
理工学部機械・精密システム工学科3年

高校時代からクライミングをスタート。専用シューズと汗止めのチョークを使ってカラダひとつで登るボルダリングが専門。今年の4月に行われた栃木クライミングカップ・エキスパートクラスでは総合2位の好成績を取った。



“登る山”ではなく、“暮らす山”の魅力。

達成感を求めて日々、登る生活。



170坪の敷地には離れの作業小屋もあり、木を削って棚などを製作。山の生活はいい意味で忙しく、奥様ともども、のんびりしている時間はあまりないのだとか。

月曜日から木曜日まで授業のために八王子で過ごし、週末は八ヶ岳のふもとの、愛情を込めて作りあげた自宅で過ごす。野村先生は、2年ほど前からそんな豊かな生活を続けている。「若いうちは、難しい山に登れば登るほど達成感が大きいと感じるでしょう。でも、年を重ねるとどんな山に登っても、自分が登ってきた道のりをこれまで歩んできた人生と照らし合わせ、深い達成感を味わえるようになるんです。でも私は、山登りだけのために山に住んでいるわけではありません。この地に家を建てたのは八ヶ岳好きの女房の影響が大きいのですが、私たち夫婦にとって、山は眺めて楽しむものなんです」

その言葉通り、リビングや2階の大きな窓からは富士山にアルプス、八ヶ岳が一望できる。山の自然は、新緑、紅葉、星空、満月の月明かり……と、季節や時間ごとに美しく姿を変えて、一

日常の暮らしに山がある。これは、ある意味で一番贅沢な山の楽しみ方かもしれない。

### 富士山やアルプスを眺めて楽しむ日常。

年じゅう自分たちの目を楽しませてくれるという。冬の寒さは厳しいが、薪ストーブを焚いた家の中はじんわりと暖かく、東京のほうが寒いと感じるのだとか。雪が降った後にはキツネやウサギ、シカなど野生動物の足跡も。夏は涼しく、クーラーも必要ない。新鮮な野菜が安く手に入り、近くには、目の高さに富士山が見える温泉がある……、これが野村先生の山暮らしだ。

「ここでの暮らしは、生活の中に自然と文化があり、うまくバランスが取れています。庭の野菜を育てたり、薪ストーブのファイヤーキープをするのは体力的には辛いけど、とても楽しい作業です。人間は与えられたものだけで機械的に生活していると脳が退化してしまうので、学生たちにはもっと自然の中に入って、本当の意味での豊かな生活」を目指したいと話しています。この生活なら説得力があるでしょう? (笑)」

「この競技はスピードを競うというよりも、どれだけ高く登れたかが勝負で、やっぱり登りきったときの達成感が魅力です。大会に出始めてから、その楽しさがわかってきた気がします」



ホールド（壁面に取りつけられた岩）をつかむため、手のひらにまで筋肉がつく。太い腕を想像するが芝田君のカラダはいわゆるボクサー体型で、しなやか。

父親の影響で子供の頃からクライミングに親しんでいた芝田さんが、本格的にクライミングを始めたのは高校生のとき。現在は室内のジムで週に4、5回、一日6時間は練習している。「この競技はスピードを競うというよりも、どれだけ高く登れたかが勝負で、やっぱり登りきったときの達成感が魅力です。大会に出始めてから、その楽しさがわかってきた気がします」

「6月にはジャパンカップがあり、上位何人かがワールドカップに出場できるので、今はそれを目標にがんばっています」人と競うためだけでなく自分と闘って達成感を得るために、彼は今日も登り続けている。

ロッククライミングは、最低限の道具だけを使って岩場を登るフリークライミングが基本。その中でも、チョーク（すべり止め）とチョークバッグだけを携えて登る。ボルダリング、ロープを使って登る。トップロープ、カラビナにロープを通して登る。リード、などのスタイルがある。最近ではインドアのクライミングジムも増え、日本でも人気のスポーツとなっている。

「同じ所を登っていても、体調の良し悪しでカラダが軽くなったり重くなったりするので飽きません。たくさん登って経験値を上げたい。僕はまだ腕の力に頼ってしまうところがあるんですが、全身の筋肉を使ってバランスよく登ることが重要。その感覚を身につけることや、メンタル面を鍛えることが今後の課題です。プレッシャーをうまく力に変えることができればいいんですが、緊張して……」

「この競技はスピードを競うというよりも、どれだけ高く登れたかが勝負で、やっぱり登りきったときの達成感が魅力です。大会に出始めてから、その楽しさがわかってきた気がします」

「6月にはジャパンカップがあり、上位何人かがワールドカップに出場できるので、今はそれを目標にがんばっています」人と競うためだけでなく自分と闘って達成感を得るために、彼は今日も登り続けている。

全長 872mのリフトから眺める絶景に、12分の所要時間はあっという間！山麓～山上なんて、駅の名前もなんとかわい。

Summer Recreation Plan

# 思い立ったら登りどき 高尾山登山のすすめ。

都心から約50分で行ける高尾山。リフトからの景色を楽しむもよし、お茶屋さんをハシゴするもよし、どんな人でも気張らず、気のおもむくままに登山を楽しむことができます。



左ノミシュランの旅行ガイドで三ツ星にもなっている高尾山の頂上からの眺めは絶景。空気が霞みやすい夏は富士山が見えたらラッキー！下ノ浄心門から北(右側)のコースが、3人が登る4号路のスタート地点。イヌブナの林など深い自然を味わえるコースになっている。



上ノ木の根が縦横にはっている山道は、都会では味わえないもの。「気軽な高尾山といえど、山は山。歩きやすい靴をおすすめします」と小林さん。下ノ山頂へと到着！今回はリフトを使ったコースのため、3人はまだまだ登り足りないさそうな様子だ。周りは昼食をとる人たちでにぎわう。



右ノ復路として選んだ1号路には茶屋が立ち並ぶ。「寒天シェイク、はじめて飲みました」と高野さん。おやきや団子など、魅惑の甘味がたくさん。左ノ山頂では、名物のとろろそばや、山菜、おでんなどをいただける茶店が。もちろん自分で用意したお弁当を楽しむもよし。



右ノ往路として選んだ4号路の名物が、高尾山に唯一あるというこの吊り橋。川沿いの空気よさに、3人の足取りも自然と軽くなる。下ノ高尾山の各所には、ちょっとひと休みできるイスやテーブルがある。「木を活かしたデザインなので、自然と景色になじんでいますね」と小林さん。



左より  
大岩昌樹さん Masaki Oiwa  
経済学部経済学科2年  
高野汐理さん Shiori Takano  
文学部日本文化学科2年  
小林弘幸さん Hiroyuki Kobayashi  
経済学部経営学科3年

小林さん「景観、トイレなどこんなに設備がいいところはめったにないので、皆さんにおすすめします」  
高野さん「部活で登った山はほとんど雨だったけど、今回は天気で気持ちよかった」  
大岩さん「山登り歴はまだ1年くらいなのですが、高尾山は何度来ても楽しめますね」

どんな人でも、どんなときも楽しめる、それが高尾山。  
「ここ高尾山には、季節を問わず老若男女が訪れている。その魅力に迫るべく、今回の高尾山ツアーのナビゲートをかけて出てくれたのが、ワンダーフォーゲル同好会に所属する小林さん、大岩さん、高野さんの3人だ。「高尾山には約10の登山コースがあって、初心者から経験者までどんな人でも楽しめるのが魅力です。登山口まで電車が通っているのも、めずらしい」と語るのには、主将の小林さん。たくさんの山登りを経験した彼がひとりでも

足を運ぶほど、高尾山にはいくつもの楽しみ方があるという。今回高尾山を初めて登る人向けに、と3人がおすすめしてくれたのが、一気に中腹472mまで上がることでできるリフトを使った登山ルートだ。「このリフト、見晴らしが最高なんです」と、高野さん。360度山に囲まれた圧巻の景色はもちろん、途中でカメラマンが撮影してくれた自分の写真を買える、なんて気の利いたサービスも楽しい。リフトで山上駅に到着した後

途中にある吊り橋を目指して3人の足取りも自然と早くなる。「昔から、野鳥が好きで、ワンダーフォーゲル同好会を選んだ」という大岩さんは、いつも周囲をきまらざる。599mの山頂までは、リフトの山麓駅から約1時間で到着する。昼食のおすそめを3人に聞くと、「高尾山名物といえば…やっぱり、おそば！」と口をそろえた。「天気がよければ遠くの山々が一望できる」と小林さんのガイドで、山頂から足を延ばして見晴らしのよい、もみじ台へ立ち寄った後、1号路で帰ることに。高尾山薬王院や、お茶屋さんなど、

ひと息つけるポイントも満載だ。「もちろん、高尾山は気軽なイメージがありますが、山は山なので足元や服装などは気を配ったほうがよいと思います。それをふまえたうえで、散歩がてら来るのもいいし、ちょっとトレーニングしたかったら、あえて大まわりしてもいい」という小林さんの言葉然り、「リフト、トイレなどの設備が整っていて、山登りの経験があまりない人でも安心」という高野さんと大岩さんの言葉然り、高尾山はいつ来ても、その人のスタイルや経験に合わせて山と触れ合える、魅力満点のスポットなのだ。

## Column 高尾山マスターに聞く 高尾山を楽しむエトセトラ

スキーのトレーニングのために、約4年間、月に1~2回は高尾山に通うスキーヤーの奥谷光智さん。そんな奥谷さんに高尾山をより楽しむためのコツを教えてくださいました。  
●おすすめの時間帯は？  
「早朝の始発(新宿発5時くらい)に近い時間に行き、混むお昼には下山するのがベストです」  
●おすすめの季節は？  
「富士山を見るなら11月～のすごく寒い日に。空気が澄んでいるから、景色も遠くまで楽しめます」  
●おすすめコースは？  
「周りの山々へ足を延ばすと、さらに楽しいです。ぜひ景信山、陣馬山、城山など、自分だけのコースを作ってみては？」



## HACHIOJI CAMPUS KENDO

道場の張り詰めた空気のなかで行われる、剣道部の練習。厳しい練習が終わって、防具を取ると、部員たちは一様に、ほっとしたような表情を見せた。笑顔で写真におさまる部員たち。その頭の片隅にはいつも、「勝負」の2文字があるようだ。

帝京大学剣道部は男子54名、女子11名の大所帯。道場では、気合いの入った声が飛び交い、いつも活気にあふれている。目指すは、「全日本学生剣道選手権大会」への出場。そのためには、「関東学生剣道選手権大会」で上位に入らなければならない。しかも、選手権大会への出場を決める選抜選手は、わずかに7名。この狭き門をめぐる、試合前になると、毎回リーグ戦形式の選考会が行われる。

「普段は気の合う仲間ですが、試合になればライバル。勝つためにみんな、週6回、毎日2時間以上の厳しい練習を重ねています」と話すのは、法学部4年生の田中宏季さん。主務を務める

田中さんは、試合前になると選手を盛り上げるために、部としての雰囲気づくりにも努めるという。「自分が選考会でもれたとしても、試合に出るメンバーを励まし、応援する。そういう姿勢を大切にしながら、部全体で強くなりたいと考えています」

強化指定クラブのため、剣道の優れた実績が評価されて推薦入試枠で入学した学生も多いが、なかには一般入試で入学し、剣道部に入ったという学生も。法学部3年生の猪瀬康宏さんもそのひとりだ。小学校のときに、剣道を始めた猪瀬さん。高校までは思うような成績が出せなかったというが、大学に入って大きな転機を経験した。「精神面で強くなれたのだと思います。いい意味で肩の力が抜けて、勝つコツがわかってきました」

ところで、田中さんと猪瀬さんには共通の、将来の夢がある。「子供の頃、剣道の魅力を教えてくれた道場の先生のように、警察官になりたい」

剣道で培った粘り強さと精神面の強さがあればきっと、将来の道も開けるに違いない。

### 帝京大学剣道部

Teikyo Univ. KENDO CLUB

目標は「関東学生剣道選手権大会」上位進出と、「全日本学生剣道選手権大会」への出場だ。剣道部が掲げるスローガンは「勝負」。「どんな時でも、精神面の強さを保ち、勝負をしかける」がモットー。



Good Fellows.

やっぱり  
仲間が、  
一番です

いま、何やってる？

「なりゆきかな」写真家になった理由を尋ねると、ミヤジシngoさんは、そんなふうになんか勝手に、穏やかな笑みを浮かべた。「最初、編集プロダクションに入ったんですけど、文章書くのがすごく下手で。見かねた先輩が、お前写真やってみるかかって。写真を撮ってみたら、こっちの方が楽しいなって思えたんですよ」

その後、女性誌や広告写真で活躍するカメラマンのアシスタントを3年経験し、独立した。「フリーランスになったときは、パブル崩壊後で仕事量も減っていたけど、なんとなく細々と仕事がつながって。お世話になった人が、また新しい仕事を紹介してくれた。自分がこういうことをしたいんだって、相手にちゃんと伝えると、手を貸してくれる人がいたりするんですよ。若い頃は、特にな」

広告や雑誌の仕事が続けながら、作品づくりに取り組んだ。旅先で出会った子どもたちや、海と犬、島の写真など、テーマは様々。だが、その写真にはいつも、寄り添う人たちの風景が記録されている。それは、家族を大切にしているミヤジさんの

世界観でもあるのかもしれない。「妻と子ども2人と、葉山で暮らしています。結婚して生活が変わったし、面白くなりました。話し相手ができただけでいい人は大きいかな。葉山は東京と違ってのんびりしていて、あくせく働かなくてもいいのかと、つい思っちゃうような不思議な空気感があります。東京にいた頃は、ストレスと過労で倒れたこともあったけど、こっちに来てから、いちばん大事なのはお金じゃないと思うようになりました」

葉山生活の魅力をたっぷりと語ってくれたミヤジさん。大好きな葉山で、先日「犬と飼い主」の写真を集めた写真展を開催したのだとか。

「人撮るのが好きなんです。世界中の街角で「犬と飼い主」をテーマに写真を撮っているのは、犬と一緒にいるときって、飼い主の素の部分が見えるから、それが面白いと思うよ」

ところで、ミヤジさんがいまいちばん気になる「犬と飼い主」は、オバマ大統領と、オバマ家の犬「ボー」なんだとか。「でもね、ほんとは普通のひとがいちばん面白い」そう言って、ミヤジさんは、いたすらっぽく笑った。

INTERVIEW

写真家

# ミヤジシngoさん

その写真には、何気ない日常の、キラキラした瞬間が、いっぱい詰まっています。



Shingo Miyaji

法学部法律学科'90卒。1993年より写真家として活動を始める。「しあわせな瞬間」が写真活動のテーマ。2001年ドイツ・ベルリンでの展示を皮切りに、「犬と飼い主」を題材にした個展を各地で多数開催。共著に「川は今日も流れ人は今日も食におぼれる」[LOVE] (全て愛育社)がある。

先生が、教えてくれるコト

帝京大学薬学部 学部長補佐

## 夏莉英昭 教授

Hideaki Natsugari

1944年神奈川県生まれ。1967年東京大学薬学部卒。武田薬品工業に32年間勤務。東京大学大学院薬学系研究科客員教授を経て、現職。専攻は創薬科学・有機合成化学・医薬品化学。薬学博士。



教えて、先生！ むずかしい有機化学が、みるみるわかる。

創薬研究のプロから薬剤師のプロを育てる！

「難しい有機化学を、わかりやすく教えてくれる」と学生たちの支持を集めるのは、薬学部の夏莉英昭教授。武田薬品工業株式会社で、30年余り創薬研究にたずさわり、4年前に帝京大学薬学部に着任した。

「薬学部の学生は本当に忙しい。進級試験や臨床実習、国家試験と気を抜けない日々が続きます」だからこそ、夏莉教授は学生たちのちょっとした変化にも気を配る。「薬学部では教員が7、8名の学生を受け持つ担任制をとっています。新入生が入ってくれば、みんなでピクニックに行き、勉強や進路の相談にも乗る。彼らの成長はいつも写真に撮っていて、1年間で終わらしたら、それぞれの学生に渡すようにしています」

そんな夏莉教授の優しさは、学生たちにもちゃんと伝わって



奥様と愛犬のケンを芦屋の自宅に残し、東京での単身生活は9年目。週末には自宅に戻り、犬の散歩をするのが何よりも楽しみ。研究室には、ぬいぐるみや写真など犬グッズが所狭しと並び。ちなみに、今日のネクタイも、犬柄。

いるようだ。研究室の壁には、寄せ書きが飾られていた。「私の誕生日にパーティーをしてくれませんか」

また、少数制だからこそ、学生たちがつまずきやすいポイントもよくわかると夏莉教授。昨年、出版された著書「有機化学（ベーシック薬学教科書シリーズ5）」は、薬学生に必要な有機化学のエッセンスが凝縮されていて、わかりやすいと好評だ。「化学が好きで入学したという学生でも、いざ授業が始まると、難しくて苦手意識を感じるようになることも。この教科書では、薬剤師のプロになるための知識を集約しました」

「先生は非常に学生思い。研究者として輝かしいキャリアを持っていて、尊敬できるスコイ人だけど、僕らの目線まで、ちゃんと降りてきてくれる」修士課程1年生の若松真太郎さんの言葉は、薬学部の学生たちみんなの思いでもあるようだ。



# SPOT

## 「風を受けて走る感じが、気持ちいい」

推薦人 法学部法律学科2年 広瀬裕次さん



▲「奥多摩周遊道路」

秩父多摩甲斐国立自然公園内に19.7キロメートルにわたって走る道路。奥多摩湖を眼下に望むことができ、週末は多くの人々が訪れる。スピードの出しすぎには、くれぐれも注意を。

「バイクが趣味」という法律学科の広瀬裕次さん。免許を取ったのは高校1年生のときというから、運転歴はかなり長いほう。愛用のバイクとの付き合いも、今年で5年目になる。普段の通学には電車を利用してはいるが、週末になると、ふとバイクに乗りたくなるのだという。

「山沿いの道で、眼下には奥多摩湖が見える。風を受けながらバイクで走ると、すごく気持ちいい。一年を通じて、奥多摩の自然を楽しめるのですが、紅葉の季節は特にきれいです。」  
また、「長期休暇なんかには、バイク仲間とキャンプに行ってみよう」と、そんな希望はあるものの、バイクが趣味という友人が周囲にあまりいないため、ひとりで乗ることが多いという広瀬さん。

「一緒に走ってくれるツーリング仲間と、後ろに乗ってくれるひと、募集しています!」

全国にある帝京大学のキャンパスで学生生活を送るみなさんに、友だちにもすすめたい、お気に入りのひとつ、聞かせてもらいました。お気に入りの場所や映画、音楽や本。そこには、それぞれの思い出と、大学生生活の現在がいっぱい詰まっています。

# MUSIC

## 「就活の合間に、音楽を聴いて気分転換」

推薦人 理工学部バイオサイエンス学科4年 竹内大貴さん



### 一度聴いたら忘れないメロディ

現在、就職活動の真っ最中なのは、バイオサイエンス学科の竹内大貴さん。普段は友だちと遊びに行ったり、テニスをしてることが多いという竹内さんだが、最近「就職活動に役立つかなと思って、家で真面目にニュースを見る」ことが増えたのだとか。「頭のなかの4割ぐらいは、就活のコトが占めている」と話す竹内さんだが、通学途中や移動中には、好きな音楽を聴いて、気分転換を図っている。「普段聴くのはJポップ。」

でも、メジャーなのはラフソングばかりだから、インディーズを聴くことが多いかな」最近、竹内さんが気に入っているのは「超飛行少年(スーパーライジングボウイ)」。2005年の結成からわずか6ヶ月という速さでメジャーデビューを果たしたという水戸市出身の3人組だ。



▲「エクスキューズ」超飛行少年(スーパーライジングボウイ) (Columbia Music Entertainment ¥2,625) 茨城県水戸市出身のスリーピースロックバンド。シングルに「水彩リトルスペクトル」、アルバムに「エクスキューズ」「ハイパーライジングボウイ」など。

## Our Recommend!

みんなの、  
カルチャー

## 「子供から大人まで楽しめるコメディ」

推薦人 福岡医療技術学部理学療法学科3年 内藤勇人さん



▲「Mr.ビーン! VOL.1」 (ジネオン・ユニバーサル・エンターテイメント ¥1,800)



©2009 Universal Studios. All Rights Reserved.

▲「Mr.ビーン! VOL.1」 イギリスで90年にテレビシリーズの放送が開始され、98年には映画版「BEAN」が公開された。最新作は「Mr.ビーン カンヌで大迷惑?」

「Mr.ビーン」で大いに笑った。3年生になって、専門的な分野の勉強が増え、課題が山積みの日々。「結構いっぱい笑っています」と話すのは、理学療法学科の内藤勇人さん。普段はサッカーをしたり、バスケットをしたり、友だちと遊ぶことが多いアウトドア派なのだとか。そんな内藤さんが映画を観るのは、授業を終えて帰ってきた平日の夜だ。疲れて帰ってきて、大いに笑いたい—そんな日にぴったりなのが「Mr.ビーン」シリーズ。ローワン・アトキンソン演じるMr.ビーンは、精神年齢9歳のミステリアスな男。彼が巻き起こすドタバタ喜劇は、何度観ても面白いと、内藤さんは言う。

「Mr.ビーンは、ほとんど話を誘うのがいいですね。ひとりでも面白いし、友だちと観てもみんなが楽しめる映画。劇中ではおバカなふりをしてるアトキンソンは、実はオックスフォード大学卒。原案を書いたのも彼だし、すごくIQが高いらしい。そういう意外性も魅力なのかもしれませんね」

## 「世界はたくさんの色に満ちている」

推薦人 医療技術学部臨床検査学科4年 小倉みずえさん



### 次の展開が気になって、一気に読みました

自殺を図った僕に、天使がささやいた。「おめでとうございませ、抽選にあたりました!」天使いわく、修行すれば、輪廻の輪に戻れるのだとか。生き直すつもりなどまったくなかった僕だが、仕方なく、真という少年の体にはホームステイし、自分の罪を思い出すはめになり…。そんな不思議な書き出しから始まる、森絵都の「カラフル」。

「ホームステイをした真の体は、後になって自分自身だったということがわかり、生き直すことで、友だちや家族の意外な一面が見えてきて、主人公はかけがえないものが何なのかに気づくようになります。そういう展開が面白かったですね」



▲「カラフル」森 絵都 (文春文庫 ¥530) 生と死という深刻なテーマを、森絵都ならではのユーモアで包みこむ。あたたかくホロリとさせるベストセラー小説。

# BOOK

QUESTION 「肝臓」ってどんな働きをするところですか？

タフな臓器で、半分ほど抽出しても元の大きさに戻る驚異的な回復力をもっている肝臓。標準的な大人で2kg近い重さを持った、体の中で最も大きい臓器です。お酒とも深い関係を持つ肝臓の役割を消化器系のスペシャリストに伺ってきました。

ANSWER

食べ物を細胞の栄養に変えたり 毒素を分解する体の工場のようなところですよ。

肝臓の役割、機能について 教えてください。

Dr...食べたものは腸から吸収されますが、肝臓は、消化された栄養から体に必要な物質を合成します。また、体の中に異物が入ると、腸から吸収されて肝臓に入って解毒されます。お酒もそうですね。それから、薬。飲み薬も腸から吸収されますが、永遠にあって困るので、肝臓に取り込んで代謝し分解をします。このように肝臓はいろいろなお仕事をしてくれます。

お酒の強い弱い肝臓に 関係あるんですか？

Dr...アルコールというのは肝臓

で代謝されてアセトアルデヒドという物質になり、それから体に無害な酢酸になります。このときアルデヒドを酢酸に変える酵素が必要になるわけですが、日本人の場合は、この酵素を持っていない人がいます。アルデヒドは非常に毒性の高い物質なので、酢酸にならずに血中に増えると、気持ち悪くなったり、顔が真っ青になったりします。不思議なことに、酵素を持たないケースはアジア人だけで、欧米人はみんな酵素を持っているんですよ。これは意外と知られていないことですね。

肝臓の病気でいちばん 多いのはなんですか？

Dr...今、多いのはC型肝炎ウィ

ルスによる病気です。肝炎にはA・B・C・D・Eがありますが、Dは日本にはほとんどありません。AとEが急性肝炎、Cはほぼ慢性で肝炎・肝硬変の原因となります。Bは両方です。Aは生モノが原因で、一番よく知られているのは牡蠣ですね。Eは日本にはあまりないといわれていたのですが、豚の肝臓や鹿、猪を生で食べると感染することがあります。

慢性B型肝炎はほとんどが母子感染ですね。Bは急性の場合には血液感染が原因で、主に性交渉で感染します。B型肝炎ウイルスは劇症肝炎の原因にもなり、命の危険もあるので、注意が必要です。学生で一番多いのは脂肪肝で

すね。医学部の学生を見ていても、2割は脂肪肝なのではないか？と思いますよ。原因は、運動不足と食べ過ぎでしょうね。肝臓はタフな臓器ですが、適度に運動をして、あまりいじめ過ぎない(飲みすぎない)ことが大切です。

先生は休日はどう過ごしてますか？

Dr...毎日忙しいので家でテレビを見たり、本を読んだりとのんびり過ごすことが多いです。あとは可能であれば、散歩をしたり、近所の体育館でランニングマシンを利用したり、なるべく運動をしていますよ。



滝川 一 Hajime Takikawa 帝京大学医学部内科教授

1977年東京大学医学部医学科卒業。アメリカのUCLA研究員を経て帝京大学医学部内科の講師を務める。98年より現職。日本肝臓学会理事など学会活動も多数。

Notice Board.

大学からのお知らせです

Championship

第7回帝京-ハーバードシンポジウム開催

両校の広範な教育研究活動の提携を目指して1993年に創設された『帝京-ハーバードプログラム』。共同研究や交換講義、若手教員の派遣など様々な活動が行われており、7回目のシンポジウムは6月26日(金)、27日(土)に帝京大学医学部附属病院内で行われる予定。

Association

第45回東日本大学空手道選手権大会にて空手道部が快挙

去る5月5日(祝)、日本武道館において第45回東日本大学空手道選手権大会が開催され、男子団体組手、女子団体組手ともに帝京大学が優勝した。男子は3年ぶり8回目、女子は初の優勝。11月の全日本大学空手道選手権大会に向けて、新チームでの好スタートとなった。

Award

平成20年度冲永賞・冲永奨励賞卒業式にて表彰

※学年は3月現在

受賞者は、以下のとおり。

【冲永賞】

●穴井さやか(経済学部経済学科4年) 平成17年度全日本女子ジュニア選手権大会準優勝、全日本学生選手権3位等/平成18年度全日本学生柔道体重別選手権大会優勝/平成19年度ユニバーシアード(バンコク)柔道競技大会優勝/平成19年度講道館杯全日本柔道体重別選手権大会優勝/平成20年度全日本学生柔道体重別選手権大会優勝/平成20年度講道館杯全日本柔道体重別選手権大会優勝

●空手道部

平成20年度第52回全日本大学空手道選手権大会全四種目優勝

●ラグビー部

平成20年度第45回全国ラグビーフットボール選手権大会準優勝/平成20年度関東大学ラグビー対抗戦グループ第1位

【冲永奨励賞】

●甲斐健太(経済学部経済学科4年)

平成17年度第7回アジアジュニア・カデット空手道選手権大会組手の部優勝/平成20年度第6回世界学生空手道選手権大会組手の部優勝

●石川笑美子(法学部法律学科4年)

平成17年度韓国ジュニア国際柔道大会優勝 東京学生選手権大会3位/平成19年度全日本学生柔道体重別選手権大会優勝/平成20年度全日本学生柔道体重別選手権大会3位

●チアリーディング部

平成20年度JAPAN CUP2008チアリーディング日本選手権大会第4位

Facility

女子柔道部、松本薫選手が世界選手権の日本代表に選出

去る4月4日(土)、5日(日)、福岡国際センターにおいて全日本選抜体重別選手権が開催され、近藤香、松本薫、石山麻弥の3選手が出場。57kg級に出場した松本薫選手は圧倒的な強さで見事日本一に輝き、8月にオランダで開催される世界選手権の日本代表に選出された。



Staff Credit

Table with staff credits including roles like Produce, Planner, Illustrator, Photographer, Editor, Art Director, Designer, and Publisher, along with names and departments.

Editor's Note

精神的な疲れを癒すには海、肉体的な疲れを癒すには山、と聞いたことがあります。今回、久しぶりに登山(といっても高尾山リフト使用ですが...)をして、それがわかったような気がしました。山登りをすれば体力的には疲れるはずなのに、なぜか体は元気になるのです。取材で訪れた時期はちょうど新緑がきれいな季節で、まだ淡い緑の葉がキラキラと輝いていました。ミシュランの旅行ガイドに掲載されたこともあり、最近大人気の高尾山ですが、土の香りや山の景色を楽しむだけでなく、夏には期間限定で開催されるピアマウントで、都心から横浜までの夜景も楽しめます。(未成年の方は、ジュースでどうぞ!) 海だけでなく、たまには山もいいな、と思った今号の取材でした。

See You Next Issue!!

09年9月10日 Vol.75 配布予定

Flair

発行月: 2009年6月(年4回発行) 発行: 帝京大学本部大学PR推進室 〒173-8605 東京都板橋区加賀2-11-1 TEL 03-3964-4162 FAX 03-3964-9189 E-mail: post@med.teikyo-u.ac.jp URL: http://www.teikyo-u.ac.jp/flair/